機械器具51　医療用嘴管及び体液誘導管

管理医療機器　経腸栄養ポンプ用消化器用ストップコック　JMDNｺｰﾄﾞ　35375032

メディカット ストップコック
（ISO 80369-3　ENFit™）

再使用禁止

【警告】

＜使用方法＞

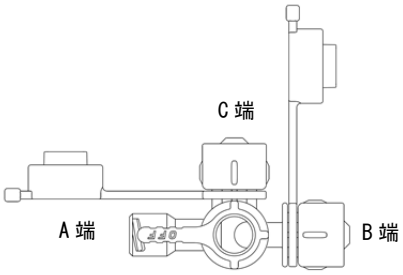
本品を用いて脱脂乳剤及び脂肪乳剤を含む薬液を投与する場合、三方活栓やコネクタのひび割れに注意すること。ひび割れが確認された場合、直ちに新しい製品と交換すること。[薬液により三方活栓及びコネクタのひび割れが生じると、液漏れを起こすおそれがあるため。]

【禁忌・禁止】

＜使用方法＞

1. 再使用禁止
2. 再滅菌禁止
3. 本品と有機溶剤との接触は避けること。[アルコール含有消毒剤及び脱脂等を目的とするアセトン等の有機溶剤に接触すると、ひび割れが生じるおそれがあるため。]
4. 動脈・静脈輸液への使用禁止。[本品は経腸栄養のためのコネクタを有する三方活栓のため。]

【形状・構造及び原理等】



本品は、消化管内留置チューブ、ドレインチューブ等に接続して用いる三方活栓で、薬液、栄養剤の注入、排液・灌注時に回路の開閉をする目的で用いられるものである。本品の本体は、3 つのコネクタ（A 端、B 端及び C 端）からなり、各コネクタの回路の開閉をするための回転部が付されている。
また、A端、B端、C端のすべてのコネクタがISO 80369-3の形状に適合している。

＜原材料＞
三方活栓:ポリカーボネート

【使用目的又は効果】

本品は経腸栄養ライン（経腸栄養ポンプを用いるものを含む。）に接続し、薬液、栄養剤の注入、排液、灌注時に回路の開閉をし、流路方向の制御を行う。

【使用方法等】

1. 接続端形状

カタログ番号	A端	B端	C端
37063	メス型	オス型	オス型

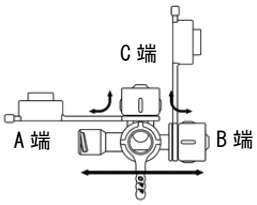
2. 接続

(1) A端は、経腸栄養カテーテル等に接続する。
(2) B端は、経腸栄養の投与器具等に接続する。
(3) C端は、必要に応じて経腸栄養用の注射筒等と接続する。

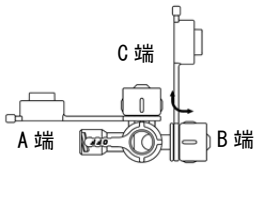
3. レバーの切換

(1) OFFレバーを図1の位置にすると、A・B・C端がすべて開放される。
(2) OFFレバーを図2の位置にすると、B・C端が開放される。
(3) OFFレバーを図3の位置にすると、A・B端が開放される。
(4) OFFレバーを図4の位置にすると、A・C端が開放される。

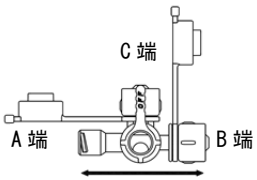
〈注意〉 OFFレバーを図1～図4の各位置に合わせると、レバーが軽くロックされる。ロックされない位置ではレバーを固定して使用しないこと。



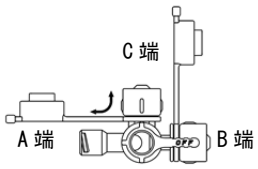
(図 1)



(図 2)



(図 3)



(図 4)

4. C端を使用しない場合

(1) キャップでC端を閉じておくこと。

〈注意〉 三方活栓内に陽圧がかかるケースでは、キャップでC端を閉じるだけでなく、必ずOFFレバーを図3の位置におくこと。[C端から漏れが発生する可能性があるため。]

【使用上の注意】

重要な基本的注意

- 使用中は本品の破損、薬液漏れ等について、定期的に観察すること。
- 接続部は使用中に緩むことがあるので、漏れや外れに注意し、締め直し等の適切な処置を行うこと。
- 本製品は消化器系の排液・栄養補給専用の三方活栓である。消化器系以外の製品には使用しないこと。
- 本品の接続端に栄養剤等が残留した場合には交換もしくは洗浄すること。[接続端に残留した栄養剤等で菌が繁殖し、感染するおそれがあるため。]
- 使用中は各接続端の周囲に栄養剤の付着がないように清潔に保つこと。[栄養剤の固着により嵌合が外せなくなる恐れがあるため。]

- 本品を接続する際は、過度な締め付けをしないこと。[本品が外れなくなる又は、本品が破損し、接続部からの液漏れ、空気混入が生じる可能性がある。]
- 本品との接続部には過度に引っ張る、押し込む、折り曲げる、捻るような負荷を加えないよう注意すること。[本品の抜け、破損、伸び等が生じる可能性がある。]

【保管方法及び有効期間等】

1. 保管の条件

室温下で、水濡れに注意し、直射日光及び高温多湿を避けて保管すること。

2. 有効期間

包装上に記載(自己認証(当社データ)による)。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売元
日本コヴィディエン株式会社
カスタマーサポートセンター:0120-917-205